

令和 5 年度 学校評価シート

学校名：那賀高等学校 校長名：森 文哉

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）
「自ら学び鍛える那高生」「地域に貢献する那高生」の実現につながる教育活動が展開される学校
・授業・特別活動・部活動・学校行事・校外学習など、すべての教育活動での学習を通して
① 知的探究心を鍛え、自ら学び鍛える生徒の育成
② 確かな学力や社会性・協調性を身に付け、将来医療・看護・教育・行政・語学等の分野において地域社会に貢献できる生徒の育成
・交換留学や国際交流活動等を通して国際的視野を養い将来国際的な分野で活躍できる生徒やグローバルな国際感覚を養い将来語学等を活かした幅広い国際的な分野で活躍できる生徒の育成

学校評価の公表方法	現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
誰でも閲覧できるよう、本校ホームページで広く公表する。		B	概ね達成している。（60%以上）
		C	あまり十分でない。（40%以上）
		D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（2月26日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	進路志望の実現とその先まで見据えての3年間の進路計画策定と各学年での着実な遂行	B	① 時間割上の工夫と長期休業期間等の活用 ② 進路ガイダンス、進路ホームルームの活用 ③ ICT環境の充実と効果的な運用	計画的実施又は柔軟な修正による実施状況 進学・就職の現状と推移 ICT機器の授業等様々な場面での活用状況	B B C	進路指導部を中心に企画・運営できた。 進路実現のため、最後まで挑戦する生徒が増えた。 一定の活用はあるが、有用な道具まで至っていない。	専門家やICT機器などを効果的・効率的に活用しながら、個々の生徒に応じた進路計画を策定し、進路実現につなげる。
2	国際理解教育と国際科養成の推進	C	① 海外姉妹校等との留学生・研修団の派遣や受入 ② 国際科英語集中合宿や海外研修団の派遣等 ③ 特色ある学校づくりに向けた国際交流会との連携	派遣・受入の現状と推移 各行事やオンライン交流等における生徒の活動状況 新たな取組等の検討状況	A B C	3年ぶりに活発な交流を実施することができた。 オンライン交流以外は概ね実施できた。 国際交流会との連携による新たな取組は難しい。	取組の回数や種類をこれ以上増やすことは困難であり、内容を深化させることで、生徒のグローバル意識の向上とコミュニケーション能力の育成を目指す。
3	全教職員が「チーム那高」を意識し、気概を持って指導に当たれるよう、校内体制を整理・充実	B	① 5分掌間での情報共有 ② 学年主任会や学年別の担任会を設定し情報共有 ③ 学校運営協議会と教職員・生徒との率直な意見交換	運営委員会による分析結果と各分掌の総括 各会の実施状況と生徒の改善状況 学校改善の取組状況と学校運営協議会委員の評価	B B B	運営委員会が核となって分掌等で協議・情報共有できた。 各学年の目標達成に向けて効果的な取組ができた。 教職員との意見交換は上手く行われた。	職員同士又は職員と管理職との双方向の「報告・連絡・相談」と、校長がリーダーシップを発揮して、的確な指示を出す。
4	生徒が成長するための視点に立った学校行事等の精選と充実	C	① 地域貢献につながる特別活動やボランティア活動 ② 運動部・文化部の活性化 ③ 学校行事等での生徒主体のスムーズな運営	近隣の官公庁や諸団体等との交流活動の状況 具体的取組の達成状況と生徒の成長等の状況 生徒会等の企画・運営による学校行事等の質の状況	B B C	那賀振興局との連携や、地域要請に積極的に対応した。 自主的・自立的に活動し、成果を上げることができた。 スムーズな運営だが、更に質の向上と主体性を望む。	在校生はもとより中学生にとって、特色や魅力のある学校となるため、学校行事をはじめ教育活動全体を見直し、整理を行う。

学校関係者評価（2月26日実施）
○ 学校行事等をスリム化して、学校の魅力や特色がなくなってしまうことは、本末転倒。どんな学校にするかをしっかりと定めた上で、学校行事等を調整していく必要がある。
○ 「地域に貢献する那高生」はスクールポリシーでうたっている本校の大きな柱であり、重点目標4との関わりを含めて、具体的取組や、評価項目と評価指標を作成しなければならない。
○ 地域に開かれた学校は魅力がある。行事を減らすだけでなく、中身を開かれた方向にもっていくことで、スクールポリシーにつながる。
○ 重点目標1の進路実現の評価項目と評価指標は、客観的な評価ができるものにする必要がある。
○ 芸術・アート分野に進む生徒を育成することもよい。スポーツ分野に進む生徒がいてもよい。そういった生徒のために外部指導者を充実させる必要がある。前向きな地域指導者がいる。
部活動指導の地域移行や学校間連携、合同チームの活躍に期待する。
○ 重点項目4つの枠組みを毎年見直す必要がある。令和6年度はこども達の学びの質を担保するための具体的取組、評価項目や評価指標を考えることが大切である。
○ 全教職員が「チーム那高」を意識し、気概を持って指導に当たれるよう、例えば夏に子供と同様のポロシャツを着用することを試みてもよい。
○ 那賀高校の取組を広く周知するために広報に力を入れることが大切である。HPだけでなく、SNS等も取り入れたらよい。併せて、文化祭や体育祭等のイベントに地域住民が来ることができるようになればよい。